平成３０年度事業報告

1. 井川住民講演会「森と共生する生活のあり方」

２０１８年７月１２日（木）、井川支所多目的ホールで実施した。１２０名を超す人たちの参加があり、熱気が感じられた。

　　　群馬県上野村の事例報告に多くに住民が希望をつないだので

　　　はないかという雰囲気があり、１０名以上の人たちが上野村

　　　視察を希望した。講師は長年「深林フォーラム」の代表世話

　　　人や「森の哲学塾」を主宰される内山　節先生で、東京と上

　　　野村に住居があり、“森の未来・社会の未来”に強い問題意識

　　　がある。

中でも、地域における再生可能エネルギー自給問題は、地球温暖化対策として重要な考え方である。できるだけ化石燃料に依存しない生活の工夫はどうすればいいのか、それを達成している上野村の事例報告を紹介してもらった。

井川の天然資源は森林であり、水であり、南アルプスである。

大井川の流木や森林資源はチップボイラー、バイオマス発電の可能性があり、熱エネルギー利用も考えられる。水は小水力発電に可能性がある。南アルプスは今後の観光振興、登山人口増に寄与するだろう。これらの資源を今後どのように活かすかが問われている。しかし、１）あらゆる抵抗の壁に怯まず、２）過去の経緯にとらわれず、３）産みの苦しみや痛みを恐れずに、

井川の将来ビジョン描きとその実現に力を継続する所存。

1. 上野村現地視察行（乗用車２台）

井川住民の参加が望めなくなり、静岡市街地の住民７名が

参加（安池康之、八木　功、宮沢圭輔、山本良三、長田高明、敬称略、他２名）。２０１８年１１月１６日、１７日（金、土）

【現地視察報告】

現地対応者：一般社団法人上野村産業情報センター事務局長

　　　　　　小池啓満氏

提供資料：①上野村行政視察ガイド“挑戦と自立の村”

　　　　　②森林を生かす：取り組みの紹介

　　　　　③森林バイオマスを１００％使い切る創生戦略

現場視察　①ペレット工場

　　　　　　従業員３名（移住者）、生産力年間１６００トン

　　稼働７年目、設備費２億７０００万円

　　県の補助５０％）６ｍｍペレット日産4.5トン、

　　７ｍｍペレット日産6トン、水分１０％以下

　　価格４２０円（１０キロ：約１日分に相当）

　　原木購入価格：広葉樹２４００円/トン

　　　　　　　　：針葉樹２４００円/トン

　　　　　　　②バイオマス発電機（ドイツ製、BURKARDT）

　　設備費３億５０００万円、東京に代理店あり

　　ペレットを蒸しガス化して、そのガスでトラック用

　　ディーゼルエンジンを回して発電する方式。小さな設備だが、

　　ドイツで使う針葉樹ペレットと違うために微妙な調整が必要で

　　苦心しながら運転しているという。効率はいいのかもしれない

　　が推奨できない印象。ペレット2.5トン/日、灰４０キロでる。

　　電力は全て隣のキノコ工場へ、排熱は利用しないで捨てている。

　　　　　　　③村営住宅（ログハウス、家賃３万円）

1. 村の歴史（上野村）

零戦パイロットの生き残り黒澤丈夫村長（戦後初代村長１０期

、４０年間）が行財政改革に取り組んだ歴史がある。昭和３６年ごろから５０００人の人口が減り始めた（現１２００人）。

旅館づくり、イノブタ生産、味噌麹製造など産業振興を積極的に推し進めた。村営住宅建設、子育て支援、生活補助制度、議員減らし（現８人）を実施。次の村長１期：停滞。

３代目村長神田氏（２期、８年）ペレット生産、バイオマス発電稼働。

現在、４代目黒澤村長：６台のペレットボイラー稼働、（株）キノコセンター稼働、村内４箇所に温泉宿、林業事業体４団体。２０歳台移住者２０人を含む２３１人移住者全員仕事している。役場職員３２人中７人移住者。年収２５０万円以下の低所得家庭へは月１０万円の補助金支給。

将来は人口の半分が移住者になると予想。下仁田へは２０分程度、藤岡に近いが秩父、東京、長野へは峠越えとなる。

典型的な山国風情であり、広葉樹が多い印象。各家庭にはペレットストーブがあり、灯油の使用は限定的のようだ。ペレットの１日使用量は約１０キロというから、月の燃料代は１２、６００円程度、灯油より安い。ペレットストーブは定価３０万円程度だが、台数を決めて９０％補助金を出している。

ペレットストーブは殆ど灰がなく、比較的簡単な煙突で対応可能で、ペレットの自動供給が可能。取り扱いやすいのが特徴。

1. 井川ビジョン検討会。。。。。。。。。。井川山郷創生構想（仮称）

日時：２０１９年２月１４日

場所：葵区大岩４−４０−１２

メンバー：日本山岳会員８人

有元利道、永野敏雄、八木　功、大島康弘、木村勝利、滝田博之、松永義夫、山本良三：敬称略

今後の予定：数回の検討会を経て、ビジョンをスケッチ化し

可視化する。

1. 川根本町ネイチャーガイド養成プログラム
2. 地質・地形学講師：村松　武氏（飯田市美博学芸員）

日時：１０月１４日（第１回目）：大井川筋：参加者１０名

　　　１１月１７日（第２回目）：山犬段林道：８名

1. 樹木学講師：近田文弘氏（国立科学博物館名誉研究員）

日時：平成３１年３月３１日：徳山枝垂れ桜付近：２０名

1. 植林・育林

第２次植林計画は尾崎林業の都合で１年延期となった。

育林：下草刈り

日時：９月９日：大平見植林地で実施：参加者７名（広瀬義輝、

　　　分部　敏、祐嶋繁一、伊藤英利、尾崎　晶、山本良三）

　　　敬称略、その後、台風で鹿柵の一部に被害を受けた。

1. 登山ルート整備計画（光岳）

日時：１０月３、４、５日

参加者：６名（愛徳　篤、古林鉄平、高田麟太朗、大友裕介、

　　　　　　　片山陽介、古林輝晟：敬称略）

整備：千頭ダムー三方嶺—大根沢山手前のアザミ沢まで。

報告：報告書あり、ルートが完成次第山岳雑誌に投稿予定。

　　　（平成３１年３月３１日）　　　　　　　　　以上